

平成22年 4月19日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19592556
 研究課題名 (和文) 地域看護実践における予防的戦略の構造と技術の体系化
 研究課題名 (英文) Systematization of structures and skills of preventative strategies in community health nursing practice
 研究代表者 宮崎 美砂子 (MIYAZAKI MISAKO)
 千葉大学・大学院看護学研究所・教授
 研究者番号：80239392

研究成果の概要 (和文)：

地域看護実践における予防的戦略の構造とコアとなる技術を体系的に解明し、実践上有用なモデル作成を目的とした。4つの分担研究を行い、以下の結論を得た。予防活動における地域看護実践の構造は、予防活動の「成立」と「継続」の2側面をもつ。関与する技術には「対象との信頼関係に基づき状況を多角的にとらえる健康ニーズアセスメント」「対象の文化的背景を考慮しエンパワメントの促進を意図した健康ニーズアセスメント」「アウトリーチ」「文化を考慮した関わり」「他職種や住民等と協働した援助の展開」「PDCAサイクル稼働による活動の持続的展開」がある。これら実践の構造と技術を考慮することにより、効果的かつ効率的な予防活動を実現させることができる。

研究成果の概要 (英文)：

This study aimed to systematically identify the structures and core skills of preventative strategies in community health nursing, and to create a practical working model. Results were synthesized from research conducted in 4 distinct areas. In terms of preventative activities, community health nursing structures and skills were identified, and these need to be reflected in a model. Specifically, the community health nursing structures in preventative activities are the 2 aspects of “establishment of preventative activities” and “continuation of preventative activities”. For community health nursing skills in preventative activities, the following skills were identified: “comprehensive health needs assessment based on relationship of trust”, “health needs assessment aiming to promote empowerment while taking account of individuals’ cultural backgrounds”, “outreach”, “relationships that take culture into consideration”, “skills in developing support in collaboration with other professionals and community members” and “sustainable development of activities through operation of the PDCA cycle”. Through consideration of the above structures and skills of community health nursing practice in prevention, it seems possible to realize effective and efficient preventative activities.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域老年看護学

キーワード：地域看護、予防、戦略、構造、技術体系化

1. 研究開始当初の背景

今日の社会において、予防活動を必要とする健康ニーズは、疾病及び心身障害の発生・悪化予防にとどまらず、社会からの孤立や偏見の予防などの社会的問題をも含み、複合した様相をみせている。これまでの予防活動は、疾病予防といった単一のフェーズで健康ニーズをとらえて対策を立て、実績を上げてきた。しかし今日では、予防活動を必要とする健康ニーズを複合したフェーズでとらえて対策を樹立する必要性は高く、今後その必要性はさらに高まると予測される。そのような状況にあるにもかかわらず、予防活動を必要とする健康ニーズ特性を複合的フェーズにより解明し、体系的に整理する取り組みは不十分である。

地域住民全体を対象とする予防活動は、健康教育や保健指導等の個々の技術を充実させるだけでは、地域住民全体に貢献できる予防の成果を生み出すことは困難である。生活習慣病予防対策を例にみても、乳幼児期から高齢期に及ぶ各ライフステージ、また学校・職場・地域等の各生活拠点を働きかけの場とするポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを包含した健康づくりの仕掛け、すなわち「予防的戦略」が必要となる。そのことは予防活動としての成果を上げている国内外の実践事例の多くが示唆しているところであるが、有効であった予防的戦略の構造と用いられた技術についての検証ならびに体系的な整理は成されていない。

研究代表者らは、平成16年度～18年度に文部科学省科学研究費補助金基盤研究C(一般)研究課題名「保健活動における訪問指導の効果的推進方法に関する研究」に取り組んだが、そのなかで、予防活動としての成果を生み出す訪問指導の推進方法とは、保健活動において訪問指導を単独で機能させるのではなく他の方法(技術)と連動した保健活動としての戦

略的な組立ての中で訪問指導という技術を機能させることによって、予防活動としての成果がみられていることを実証的に明らかにした¹⁾。本研究は、研究代表者らの先の研究成果を発展させ、地域看護実践が予防活動としての成果を上げるためには、予防的戦略が必要であり、その構造と適用する技術の特性を解明し体系づけることを目指すものである。

予防活動は人々にとって問題として認識されにくい段階からかかわる実践であり、そのための技術が要求される。それ故に、個人や、その個人が所属する生活集団(家族、近隣、学校、職場等)における、健康に対する価値観や生活様式等の文化的背景を考慮して、人々に受け入れられる方法を開拓していくことが必須となる。経験豊かな保健師はその地域の文化的背景を考慮した方法を予防活動のなかで経験的に用いているが、それらが技術として共有されるレベルの形式知になっていない現状にある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域住民全体の健康悪化の未然防止ならびに健康増進に対して貢献する、予防活動としての地域看護実践において、予防的戦略の構造とコアとなる技術を体系的に明らかにし、実践上有用なモデルを作成しようとするものである。

本研究期間に達成しようとする目標は、第1に、今日の社会において、予防活動を必要とする健康ニーズの特性を明らかにすること、第2に、健康ニーズに対して、どのような戦略構造と技術を適用して予防活動を計画・実施・評価・改善することが効果的かつ効率的な地域看護実践を実現させるかを明示することである。

3. 研究の方法

(1) 事前準備：事例選定基準の作成

研究代表者及び分担者による複数回の討議を通して、今日及びこれからの社会において、予防活動を必要とする健康ニーズ特性を検討するための資料として意義ある事例の選定基準を検討した。

その結果、選定基準には、「予防活動として成果」、「保健師の関与」、「活動戦略」の3つの観点を含む以下の a～h の基準を考案した。

- a. 予防活動としての成果が中長期的に確認できること
- b. 保健師等の地域実践者が活動の計画・実施・評価・改善の過程に関与していること
- c. 健康ニーズを多角的に分析し、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを組み合わせた活動戦略があること
- d. 中長期的な視野をもった活動戦略があること
- e. 他の関連する保健活動施策や、生涯を通じた保健活動施策における位置づけを明確にしておき、地域における総合的な健康づくりの活動戦略があること
- f. 家庭・地域に波及性のある活動戦略があること
- g. 持続性を確保できる活動戦略があること
- h. 健康づくりが浸透しにくい人々・領域に働きかける活動戦略があること

なお個々の選定事例に対して、予防活動を必要とする健康ニーズの特性を検討するための資料として妥当性や有用性があるかどうか、また選定事例を総合的に見た場合に代表性や網羅性を担保しているかどうか、について研究代表者及び研究分担者間で討議し、各研究調査における最終的な分析対象事例を選定することとした。

(2) 調査の企画と構成

研究目的を追究するうえで、以下の4つの調査研究を分担研究として企画実施した。
研究1：地域看護実践における予防の概念整理—1983年から2009年の文献検討に基づいて

研究2：予防活動を必要とする健康ニーズの特性と地域看護実践の構造・技術—わが国の地域看護実践報告事例の分析から
研究3：予防活動を必要とする健康ニーズの特性と地域看護実践の構造・技術—諸外国の地域看護実践報告事例の分析から
研究4：地域看護実践の予防的戦略の構造・技術—英国の先進事例調査に基づいて

4. 研究成果

4つの分担研究を総括することにより、予防活動の実践には、以下に示す実践の構造と技術が必要であり、これらをモデルに反映させることが、効果的かつ効率的な予防活動を推進するために必要であることが結論づけられた。なおモデルを図解したものを下記に示す(図 地域看護実践における予防的戦略モデル)。

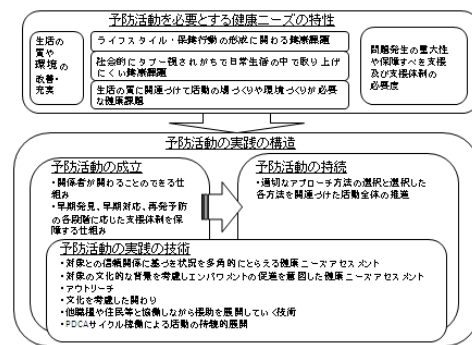


図 地域看護実践における予防的戦略モデル

(1) 予防活動を必要とする健康ニーズの性質

まず予防活動の前提となる健康ニーズについて述べる。今日の予防活動においては疾病や障害の未然防止という観点だけではなく、生活の質や環境の改善・充実を十分考慮する必要がある。また健康ニーズの性質には、「問題の蓄積が個人的かつ社会的に脅威を及ぼすことから、ライフスタイル・保健行動の形成に関わる健康課題」「問題の発生に長年の慣習が関与することから、社会的にタブー視されがちで日常生活の中で取り上げにくい健康課題」「生活の質に関連づけて活動の場づくりや環境づくりの観点から新たなアプローチが必要な健康課題」を十分含む必要がある。対策につなげて健康ニーズをさ

らに具体的に考えるには、「予防活動を必要とする健康ニーズを問題発生の重大性や保障すべき支援及び支援体制の必要度」という点から考慮する。

(2) 健康ニーズに対する地域看護実践の戦略構造と技術

これら健康ニーズに対して、効果的かつ効率的に地域看護実践を実現させるためには、以下の戦略構造と技術を適用して予防活動を計画・実施・評価・改善することが有用である。

① 予防活動の実践の戦略構造

予防活動の実践の戦略的構造には、「予防活動の成立」および「予防活動の継続」の2側面がある。前者の「予防活動の成立」には、予防活動推進の核となるチームすなわち保健師を含むその課題に関わるべき必要な関係者が関わることのできる仕組み、問題の早期発見、早期対応、再発予防といった予防の各段階に応じたそれぞれの支援体制を生涯にわたって保障する仕組みが関与する。後者の「予防活動の継続」には、適切なアプローチ方法の選択と選択した各方法を関連づけた活動全体の推進が関与し、それらの実現のためには、実態把握と健康ニーズの分析過程における健康ニーズの理解や解釈の質を保障する仕組みが関与する。

② 予防活動の実践技術

予防活動の実践技術には、「対象との信頼関係に基づき対象の状況を多角的にとらえる健康ニーズアセスメント」「対象の文化的な背景を考慮しエンパワメントの促進を意図した健康ニーズアセスメント」「アウトリーチ」「文化を考慮した関わり」「他職種や住民等と協働しながら援助を展開していく技術」「PDCA サイクル稼働による活動の持続的展開」が関与する。

(3) 今後の課題

以上より4つの分担研究による成果を総括することにより、予防活動が必要な健康ニーズ、予防活動における地域看護実践の構造と技術を検討し、地域看護実践における予防的戦略モデルを作成した。しかしながら予防

活動が必要なニーズ、実践の構造、技術のそれぞれの関係性の検討までには至らなかった。今後は予防活動が必要なニーズ、実践の構造、技術の関係性の検討を含め、地域看護実践の構造と技術の真実性を検証し、さらに補完すべき内容を明らかにする必要がある。また実践現場にてモデルとしての有用性を高める方策を明らかにする必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI MISAKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：80239392

(2) 研究分担者

佐藤 紀子 (SATO NORIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：80283555

細谷 紀子 (HOSOYA NORIKO)

前千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：60334182

山田 洋子 (YAMADA YOKO)

前千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：50292686

岩瀬 靖子 (IWASA SEIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：20431736

飯野 理恵 (IINO RIE)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：40513958

時田 礼子 (TOKITA REIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：70554608

(3) 連携研究者 なし